

東京新聞 暮らすめしと



東京新聞読者の生活情報紙

お元気ですか.....

心臓・ハートIV



南淵 明宏 37

防人に 征くは誰が背と
問ふ人の 見るが羨しき
物思ひもせず 万葉集

防人に自分の夫が取られて
ていく、その光景を近所の
人が「誰だろう?」と眺めてい
るのだが、何とやらやまし
いことか。

突然訪れた運命の衝撃に
ただ呆然とする自分の目に
ふと映ったのは何げない日
常に安住する隣人の姿だっ
た。息をのむような瞬間を

生々しく描写している秀歌
です。この歌を知ったのは
医者になってまもなくのこ
ろでした。おそらく医者に
なるまでは見聞きしたとし
ても本当の意味は理解でき
なかつたでしょう。

私の友人が末期がんを告

明・暗織りなす空間

病院待合室

げられた、と電話してきま
した。検診でひっかかった
ので病院でCTを撮ったら
「余命は二カ月」と言われ
たそうです。たいしたこと
はないだろうと思って病院
に入ったら、そこで世界が

まるつきり変わってしまった
のです。今まで演じてい
たドラマの台本が急に差し
替えになって「今日からこ
っちの台本でやりますから」
と言われた、というべきで
しょうか。

彼女が突然渡された台本

の医者役のセリフは「なに
も今日死ぬわけやあらへん
から、帰りは交通事故にあ
わんようにしてください」。
予想外なセリフに二の句が
告げなかつたそうです。
元氣を取り戻し笑顔で病
院を後にする患者。絶望の
淵に追いやられる患者。絶

望を抱く余裕すらなくはか
なく消え去って行く患者。
そんな明暗のはつきりした
患者が入り交じっているこ
ろ。医者にとって病院と

はそんな職場です。待合室
や病室で隣り合わせた患者
同士でも、結果が両極端に
なり得るのです。この異様
さ、無慈悲さには医者とし
て三十年働いてもいまだに
慣れることはできません。



プロフィール なぶち・あきひろ
奈良県立医科大学
学卒。シドニー
セント・ビン
セント病院、国
立シンガポール大学病院など
を経て、2010年12月から品
川区の大崎病院東京ハートセン
ターのセンター長。医学博士。

タイトルを「異端児」と変更しました